



むかい

学校教育目標

- ・かしこく ・やさしく
- ・たくましく ・なかよく

感謝と創造の心で未来へ

校長

今年は秋の時季がとても短く、あっという間に冬がやってきたように感じます。早いもので、今年も残りわずかとなりました。2学期を振り返ると、子どもたちは多くの行事や学びを通して、心も体も大きく成長したことを感じます。

10月に行われた運動会では、仲間と力を合わせ、最後まであきらめずに走り抜く姿に多くの感動をもらいました。保護者の皆様、地域の皆様の温かい声援が子どもたちの背中を押していただきましたこと、改めて感謝申し上げます。また、本日の校内音楽会では、どの学年も心を一つにした歌声と演奏を披露し、子どもたちがこれまでの努力を堂々と表現する姿に胸が熱くなりました。練習の過程で味わった悔しさや喜びの一つひとつが、子どもたちの成長の糧となっています。明日の音楽会をでも頑張ってもらいたいと思います。

さて、先日には聖家族贖罪堂（サグラダ・ファミリア）の主任彫刻家である外尾悦郎氏の講演を拝聴する機会がありました。外尾氏は、スペインの地で長年ガウディの志を受け継ぎながらも、単なる模倣にとどまらず「自分の創造」を追い求め続けておられます。講演の中で心に残った言葉があります。

「天才は一人ぼっちである。それはだれもいない世界を行くためだからである。だから一人になることを恐れない」

「私はガウディを見ているわけではない。（ガウディならどう考えるかを考え）その先を見ている」

外尾氏は、「真の創造とは、誰かのまねをするだけではなく、自分の信じる道を歩むことだ」と語られました。そのためには、時に孤独を恐れず、自分自身と向き合い続ける勇気が必要だともお話しされました。

この話を聞きながら、私は子どもたちの姿と重ねて考えました。学校生活の中でも、友だちと協力し合うことはもちろん大切ですが、一方で「自分で考え、自分の道を見つける勇氣」も大切です。時には周囲と違う意見をもつこともあるでしょう。そんなときこそ、自分を信じ、考え抜く力をもってほしいと思います。外尾氏の言葉は、まさにその大切さを私たちに教えてくれました。

教育の場においても、私たちはしばしば「正解を教える」ことに意識が向きがちです。しかし、本当に必要なのは「子どもたちが自分で考え、選び、歩む力を育てること」です。外尾氏の創造への姿勢は、まさにこの「自ら学び、自ら生きる力」を育てる教育の原点を思い起こさせてくれました。

そして、学校づくりも同じです。外尾氏がガウディの「先」を見つめたように、私たちも「今の学校の姿」だけでなく、「子どもたちの未来のために、どんな学校でありたいか」を常に見据えることが大切です。そのために、現在、学校評価の取りまとめを行っています。保護者の皆様、地域の皆様からいただいたご意見やご協力は、私たちにとって次の教育活動を創る大切な礎です。

教育は、教師だけで完結するものではありません。家庭、地域、そして学校が手を取り合い、子どもたちを中心に「共に育てる」ことで初めて本当の力を発揮します。外尾氏がサグラダ・ファミリアという「未完成の聖堂」を未来へとつなげているように、私たちの学校もまた、地域と共に歩みながら、子どもたちの未来へと続く「学びの聖堂」を築いていきたいと願っています。

今年一年、保護者・地域の皆様の温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。どうぞご家族皆様に穏やかに年末をお迎えください。そして新しい年が、子どもたち一人ひとりにとって、希望と挑戦に満ちた一年となりますように。

来年も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。